

イソコモリグモ

クモ目コモリグモ科

Lycosa ishikariana (S.Saito)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

砂浜海岸にのみ生息する大型のクモ。全国的に生息地点、個体数の減少が著しく、石川県では2008年の生息海岸総延長は1950年代にくらべて5分の1以下になっている。

形態

体長が雌23mm前後、雄19mm前後。背面は明るい灰色で数対の淡黒斑があり、腹面は全体に真っ黒。

国内分布

北海道、本州。本州は日本海側では青森県から島根県まで、太平洋側では青森県から茨城県まで。

県内分布

珠洲市東部、輪島市大川・増穂浦・剣地、志賀町、羽咋市、かほく市、内灘町、白山市美川、加賀市それぞれの海浜。

生態

砂浜海岸の海浜植物帯およびその海側の砂裸地の乾砂部を生息域とし、砂中に縦穴を作ってその中に潜む。穴の入り口から少し奥の範囲までは穴の内面を糸で裏打ちしてあるので、穴の縁に触れても砂がくずれない点で、砂浜に存在する他の小動物の穴と容易に区別できる。大きな穴で径15mm、深さ15~20cmほど。昼間や特に夏期は穴の入り口を封鎖している場合も多いが、夜間に穴の周辺に出て周囲を通る昆虫などの小動物を捕食する。越冬期間中に卵から孵化し、卵のうから出た子グモが5月下旬ごろから穴外に現れ、分散して小さい巣穴を作る。これが成長してふたたび子グモを出すまでには2冬を経過する。

生息地の条件

海浜植物帯が成立する砂浜海岸。

生存の危機

海岸線の侵食による後退と海岸線沿いに建設される道路、防波堤など諸種の人口造営物の増加、砂浜海岸への自動車乗り入れの増大などのため、本種の生息可能砂浜の消滅が激しく、生息個体数が激減している。(A)

特記事項

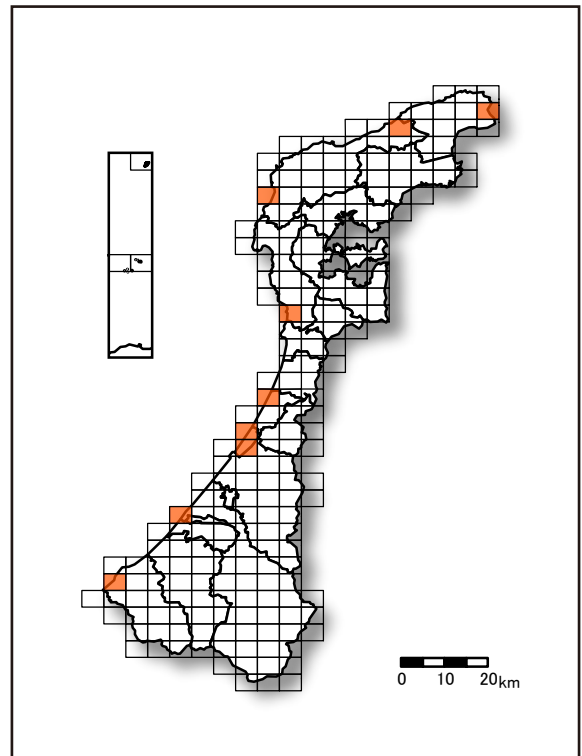
石川県指定希少野生動植物種(2007年)。

参考文献

- 千国安之輔 2008. 写真日本クモ類大図鑑改訂版. pp. 308. 偕成社. 東京.
- 藤田 衛 1939. Acta Arachnologica, 47(2):134-138.
- 徳本 洋 2004. 石川県におけるイソコモリグモ *Lycosa ishikariana* (S. Saito, 1934)の激減. のと海洋ふれあいセンター研究報告. 10: 21-30.
- 徳本 洋 2006. イソコモリグモ残存率算定へのアプローチ. 遊糸(日本蜘蛛学会連絡誌). 19:6-12.



写真提供者: 徳本洋



県内の分布